

令和7年度 第2回安曇野市図書館協議会 会議概要

1	審議会名	令和7年度 第2回安曇野市図書館協議会
2	日 時	令和7年度3月12日(木) 午後2時から午後3時半
3	会 場	安曇野市穂高交流学習センター 多目的交流ホール
4	出席者	河西委員、竹内委員、鈴木委員、杉本委員、西村委員、竹腰委員、宮下委員、藤松委員、巻山委員
5	市側出席者	洞教育部長、三澤文化課長、奈良澤図書館係長、宮澤中央図書館長、佐藤豊科図書館長、富田三郷図書館長、太田堀金図書館長、徳原明科図書館長、中島副主幹
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人

○会議の概要

- 1 開会 (三澤文化課長)
- 2 あいさつ (洞教育部長)
- 3 協議事項 (議長：巻山会長)
  - (1) 令和7年度 安曇野市図書館事業報告について
  - (2) 令和8年度 安曇野市図書館事業計画(案)について
  - (3) その他
- 4 その他
- 5 閉会

○3の協議事項概要

議 長 「(1) 令和7年度安曇野市図書館事業報告について」を事務局よりお願いしたい。

事務局より資料1 補足説明

議 長 資料1の説明が終わりました。ご意見ご質問のある方は挙手をお願いしたい。

委 員 資料1についても資料3のように概要を1枚にまとめてほしい。

事務局 せっかく集まるので、要点はこの場で館長に説明してもらうため、この資料の形をとった。

委 員 厚い資料は何を言いたいかわからなくなるので、今後はぜひ概要をつけてほしい。

委 員 今年度豊科北小学校は豊科図書館にお願いしての活動が無かったが、来年度お願いするための参考になる資料だった。学校での活動も、図書館と交流することで

広がっていくと思う。

議 長 「(2) 令和 8 年度安曇野市図書館事業計画(案)について」を事務局よりお願いしたい。

事務局より資料 2, 3 を説明。

議 長 ご意見ご質問のある方は挙手をお願いしたい。

委 員 システムと LINE 連携のことについて具体的に説明をお願いしたい

事務局 松本市と長野市等で導入されている。LINE で検索ができたり、画面にバーコードが出るのでカードを忘れた場合でも貸出ができたりする。利便性が高いので利用が広がると思っているので導入予定。

委 員 資料 2 の 2 ページ、「(2) 資料の選択・提供」とあるが、事業名では「収集」「提供」となっている。小見出しも「選択」ではなく「収集」ではないか。

事務局 選択というのは選書の意味。選書して購入するという流れがある中で、こちらのほうでは「選択・提供」という言葉を選ばせていただいている。

委 員 読ませていただいて、皆さんよく頑張っておられると思った。また後で全体の感想を述べさせていただく。

委 員 連携事業の推進が大変良いと思った。安曇野ミュージアムカードが好評とのことで、私も冬に集めに回った。そこから気になったことを知るために文書館や記念館に行き、勉強になった。これを推進事業のひとつとしてマップや特典を作って参加者が図書館を回れるような企画があったら良いのではないか。

事務局 ご意見を参考にして、来年度第 1 歩を踏み出せたらと思う。

事務局 市民・利用者目線でのご意見やご要望をいただけたらありがたい。イベント参加者が少なく、貸出冊数も昨年比で少なくなっている。コロナ明けの年をピークとして、年々減っているような状況があるため、お知恵をいただきたい。

委 員 塩尻市の図書館では、本の帯を見返しにつけている。穂高図書館でもやっていたと聞いた。帯があるのは、本を選ぶうえで参考になる。昨年はお金がかかるという話になったが、お金がかからずできる方法があれば検討していただきたい。多少お金がかかっても、それで利用者が増えるなら検討しても良いのではないか。

事務局 塩尻市は文芸書に帯をつけている。安曇野市でできない理由としてはお金よりもマンパワーの問題がある。以前、資料費が減って本の購入数が少なくなると、文芸書については可能になる可能性もあるとお話をした。しかし、現状では十分な冊数を購入できるだけの予算がついているので、帯をつけることは難しい。考えながらやっていきたい。

委 員 松本市のおはなしの会は有償ボランティアになっているが、安曇野市は無償と聞いている。どちらの市も活動内容は同じなので、安曇野市のボランティアの待遇について検討してほしい。

事務局 交通費としての支給は問題ないが、昼食代や謝礼としての支給となると著作権処理が発生するのでそこに抵触する懸念がある。無償が原則のボランティアについて、初めて交通費を支給した当時の松本市の館長は素晴らしいと思う。安曇野市も、金銭的な援助は難しいかもしれないが、寄り添う形で進めていきたいので、その際にご相談いただきたい。

委員 自分は、生徒が見られる Google Classroom の中で 1 日 1 冊本を紹介する活動をしている。手間がかからず、予約送信ができるので負担が少ない。

先ほどの本の帯の話でヴィレッジヴァンガードの POP を思い出した。付箋を貼り付けてあるだけだが、とても面白かった。それを学校の図書館でもやってみたら、生徒が手に取ってくれる。その内容も司書が考えた内容ならば著作権に抵触しないと思う。司書の生の声で発信してもらえると魅力がある。先日 YA ブックリストを送っていただいたが、色んな司書が紹介しているのが良かった。司書が個性を出して紹介してくれると若い層にも響くかと思う。本の紹介も、曜日によってジャンルを変えれば、興味のある曜日の発信をみてもらえるのでは、など、色々考えた。

事務局 生の声が届けられたら図書館側も嬉しい。図書館を利用する機会も増えると思うので、参考にさせていただく。

委員 本の紹介の作成を、高校の図書委員など若い層にしてもらうのも良いかと思う。

委員 三郷図書館を利用しているが、子どもの本をセットにして配置してくれているのが良い。忙しい時には平置きの本を借りていくが、司書の工夫のおかげで本との良い出会いがある。おはなし会を 30 年ほどしているが、「細く長く」をモットーにして続けている。諦めずに長くやっていくのが良いと思う。

議長 全体を通してご意見ご質問ある方はお願いしたい。

委員 月末金曜日の休館を変更してほしい。また、分館ごとに休館日を変える、毎週月曜日の休館を火曜日に変更するなど、見直してほしい。

事務局 開館当初の休館曜日は中央が木曜日で分館が月曜日だった。しかし、配本の都合や全体研修ができない等の都合で、全館休館に変更した。全館休館にして研修をすることで職員のスキルアップにつながる。それによってサービスの向上にもなる。然るべき時には方向性の検討をすることもあるかと思う。

委員 私は他の方よりも利用者の生の声を聞く機会が少ないので、良い意見が出ず申し訳ない。事業報告の「有明高原寮生ボランティア受入」について、有明高原寮と図書館がどのような関係性か驚いたが、成果があったようで良かった。旅する本箱プロジェクトも有明高原寮との関わりということで異色だと感じた。図書館も寮生も良い経験の機会になったと思い、「本と人、人と人の出会いの広場になる」という図書館の基本理念を実感した。この連携の範囲を広げていけばまた新たに見えてくるものがあると思う。

事務局 深くまで読んでいただきありがたい。有明高原寮の受け入れ態勢については苦慮した。本に触れあう機会の少なかった寮生が本に触れ合う機会となり、社会復帰の一助となればと思い実施している。今後も受け入れが続くと思うのでご助力いただきたい。

議長 4. その他について事務局よりお願いしたい。

事務局より来年度以降の委員の選任について説明。

議長 委員の皆様からひとことお願いしたい。

委員 本を探するときには新聞の新刊紹介欄を見ている。年間 1000 冊ほど紹介されている中で、自分が気になったものは切り取っている。それを見返したときに池澤夏樹さんの本などが出てきた。10 年前のスクラップからも本と出会えることはすごいことだと思う。心豊かに生活していくために、これからも本との出会いを大切にしていきたい。

委員 豊科東小学校では読み聞かせや遠足でお世話になった。10 月に図書館教育委員会の企画で研修会を行ったが、今年度を持って図書館委員会が休止となる。来年度以降、司書の先生の研修会が減ってしまうため、ぜひ研修の機会をいただきたい。

議長 館長の皆様からもひとことお願いしたい。

中央館長 ご寄贈いただいた本の紹介をさせていただく。宮下委員様、ありがとうございます。ぜひお読みいただきたい。

利用者が横ばいの状態であるが、予約の利用者が増加しているので、ネットの時代であることを感じる。学校連携の中でも小中高校生にできるだけ利用してもらえるようにアクションを起こしていきたい。今後インフラ整備によって図書館以外でも図書館の本を貸出できる状況が訪れるかどうかはわからないが、図書館でしか借りられないので来てもらうという姿勢では難しいかもしれない。そういった中で、やはりデジとしよの加入促進は図っていきたい。YA の利用促進や、図書館の基本的な役割にも力を入れていきたい。

豊科館長 多くの方に足を運んでいただくにはどうするか、本の魅力をどう伝えていくかについて、課題として取り組んでいきたいと感じながら聞かせていただいた。

三郷館長 普段から、子どもの居場所となるような図書館を目指している。本を借りてもらうだけでなく、まずは駆け込み寺のように身近に感じてもらい、その先につながっていけば良いと思う。最近は高校生の利用も増えてきているので、高校生をターゲットにした雑誌の導入をした。今度も公民館と共同での行事をするなど、地域と連携を深めた事業を展開していきたい。

堀金館長 堀金図書館は絵本の収集に力を入れている。キャパシティの問題で閉架に移動した絵本の中にも良書が多いので、どのように光を当てていくかが課題。今日お話を伺っている中で、司書の生の声でそのような絵本を紹介していったら良いか

と感じた。おはなし会は人が集まらない状況が続いているが、ボランティアのお話を聞いて、細く長く続けていくことの大切さを感じた。

明科館長 これまで、図書館と学習館と児童館の複合施設でにぎやかだったのが、別の場所に児童クラブができたことで図書館の児童数が減ってしまった。図書館は静かにしないといけないなど、昔ながらのしぐらがあると子どもは来にくくなってしまふ。少くく走りたり声をだしたりしても、意思疎通しながら1冊の本を選んでくれば図書館はみんなの役にたっていると思う。孫に色々な本を渡してきたが、どこで1冊の本に出会うかわからないし、その結果は何年後に出るかもわからない。図書館に来る子どもたちにも、将来を見据えながら、1冊1冊紹介して、裾野を広げられたらいい。

議 長 以上で協議を閉じさせていただきます。

以上